

タキタ ゴウ  
滝田 豪  
法学部・准教授  
修士(法学)／京都大学

## 主な研究業績

- 「中国『新左派』の民主化論－王紹光を中心に－」『産大法学』43/3-4、2010年2月
- 「中国における民主主義観の対立－リベラリズムとポピュリズム－」島田幸典・木村幹編『ポピュリズム・民主主義・政治指導』ミネルヴァ書房、2009年
- 「『村民自治』の衰退と『住民組織』の行方」黒田由彦・南裕子編『中国における住民組織の再編と自治への模索－地域自治の存立基盤－』明石書店、2009年
- 「『村民自治』の論理と中国の民主化」玉田芳史・木村幹編『民主化とナショナリズムの現地点』ミネルヴァ書房、2006年
- 「中国農村における公共性の危機－基層政権の『不良債権化』と『企業化』－」『日中社会学研究』13、2005年
- 「上海近郊農村における村政府の性格」石田浩編『中国農村の構造変動と「三農問題」－上海近郊農村実態調査分析－』晃洋書房、2005年
- 「中国研究における『国家と社会』概念の再検討」『法学論叢』153/3、2003年6月

## 研究テーマ

# 中国政治の特徴

## 概要

- 1) 中国における近代国家建設の特徴。近代国家のモデルは西洋で生まれたが、歴史や地理などの前提条件が異なる西洋と中国では、その建設のあり方は同じではあり得ない。その異同を明らかにするとともに、中国における国家や政治の特徴の解明にもつなげたい。
- 2) 中国農村の政治。中国はいまだ国民の半数以上が農村出身者であり、それは長期間にわたり変わらないと考えられる。したがって、農村の理解なくして中国の特徴を解明することはできない。具体的には、農村における近代国家組織の動態、近年の村長直接選挙、あるいは貧困など農村社会問題全般、に関心を持っている。
- 3) 中国知識人の政治論。とくに、1990年代末から行われた「自由主義」対「新左派」の論争。自由主義や民主主義あるいはポストモダニズムなど、西洋で生まれた思想や理論を、中国の知識人がどのように理解し論じているかを明らかにし、そこから中国政治の特徴の解明につなげたい。

## 応用分野

国際理解  
中国情勢の理解